

2022年度 関東学生水球リーグ戦水球 【戦評】

会場：日本体育大学

【2022/5/14】

この試合のプレー集計

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|------|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|------|
| 1部 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 筑波大学 | 11 | <table border="1"> <tr><td>2</td><td>—</td><td>2</td></tr> <tr><td>4</td><td>—</td><td>2</td></tr> <tr><td>2</td><td>—</td><td>1</td></tr> <tr><td>3</td><td>—</td><td>3</td></tr> </table> | 2 | — | 2 | 4 | — | 2 | 2 | — | 1 | 3 | — | 3 | 8 | 中央大学 |
| 2 | — | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | — | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | — | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | — | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | PSO | | | | | | | | | | | | | | |
| | 審判: | | 折笠 敬一 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 黒崎 千智 | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | |
|------|-------|------------|-----|------|
| 筑波大学 | 31 | SH数 | 30 | 中央大学 |
| | 14 | 速攻数 | 7 | |
| | 15 | ST・SB | 15 | |
| | 4 | SH・P誘発アシスト | 9 | |
| | 62% | GK阻止率 | 39% | |
| 7 | EX反則数 | 4 | | |

ST・SB:ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

2022シーズンの開幕戦。両チームともに、初日にはダブルヘッダーを行う強行日程であるだけに、疲労困憊になるような試合運びは避けたいところ。

1P

序盤、筑波大はシュートで終わるような攻撃リズムであったが、中央大は攻めのリズムが遅く、パスを出すタイミングも悪い展開で、このピリオドだけでオーバータイムが3本。その最初のオーバータイムを筑波大が右サイドから攻め、持ち込んだ⑦嶋本が先制ゴールを奪った。その後は、硬さのとれた中央大も徐々にペースを上げ、特に、筑波大シュートをシュートブロックで3本も止めるなどしてチャンスをつかみ、ピリオド中盤に得点力のある⑨藤井、⑩竹村で連続得点して同点にして、その後は一進一退の攻防が続いた(筑波大2-2中央大)。

2P

このピリオドの主導権を握ったのは中央大。再三の退水攻撃のチャンスをつかんでリズムが上向いたが、ことごとくシュートが決まらず、筑波大GK⑬木之下の守備範囲の広さが勝った展開。逆に筑波大はエース⑫眞板が退水シュートやトップ位置から狙いすましたシュートを決めて、引き離しにかかった。このピリオドは中央大のシュートを防いだ筑波大GK⑬木之下が目立った。ただし、前半を終えた段階では、中央大のDFの戻りが適格で、筑波大にいい形の速攻を出させない展開。対する筑波大は中央大のセンター攻撃を読んで、早めに対処するなど、お互いにややディフェンシブ面での充実ぶりが目を引いた(筑波大6-4中央大)。

3P

ピリオド序盤に中央大センター⑨藤井のシュートを防いだ筑波大が、左45°位置からの⑥佐野の切れのいいシュートが決まって4点差に広げたが、ここから両チームともに決め手を欠く長いラリーの応酬が続いた。その流れを筑波大⑧山田のボール奪取からの速攻を自身が決めて断ち切った。この時点で4点差を広げて、筑波大は安全圏内に(筑波大8-5中央大)。

4P

このピリオドも、中央大のDFはゴール前に戻る意識は高かったが、そこで空いたスペースを筑波大⑦嶋本がトップ位置からのシュートを決めて再び4点差に。その後は、筑波大は速攻と退水攻撃で2点を加え、対する中央大もようやくパスが回る展開で押し返したが、最終的には筑波大11-8中央大で、リーグ戦の開幕は筑波大が制した。

中央大としては筑波大速攻には対応して決定的な場面を作らないDF展開ができていたが、ゴール前に戻る意識が強すぎたことで、7mレンジに空間ができてしまい、そこをシュート力のある筑波大選手に決められるという展開が各ピリオドの序盤に続出した。結局はその失点の差が得点差になってしまった形だ。